

令和5年度消費生活eモニター

第7回アンケート集計

1 調査趣旨

SDGsとは、貧困、紛争、テロ、気候変動など、様々な社会的課題の解決に向けて、「誰一人取り残さない」をキーワードに2030年までに達成すべき17のゴールが定められた持続可能な開発目標のことで、2015年9月の国連サミットで採択されたものです。国や地方公共団体、企業、消費者等が連携・協働し、取組を進めていくことが必要とされています。

昨年度、消費生活eモニターを経験された令和5年度消費生活eモニターを対象に、**その後のSDGsに関する取組の実態と意識**について調査し、今後の行政の参考資料とさせていただきます。

2 調査事項

「SDGs（持続可能な開発目標）について」

3 調査対象 令和5年度消費生活eモニター 23名 (回答者数22名・回収率96%)

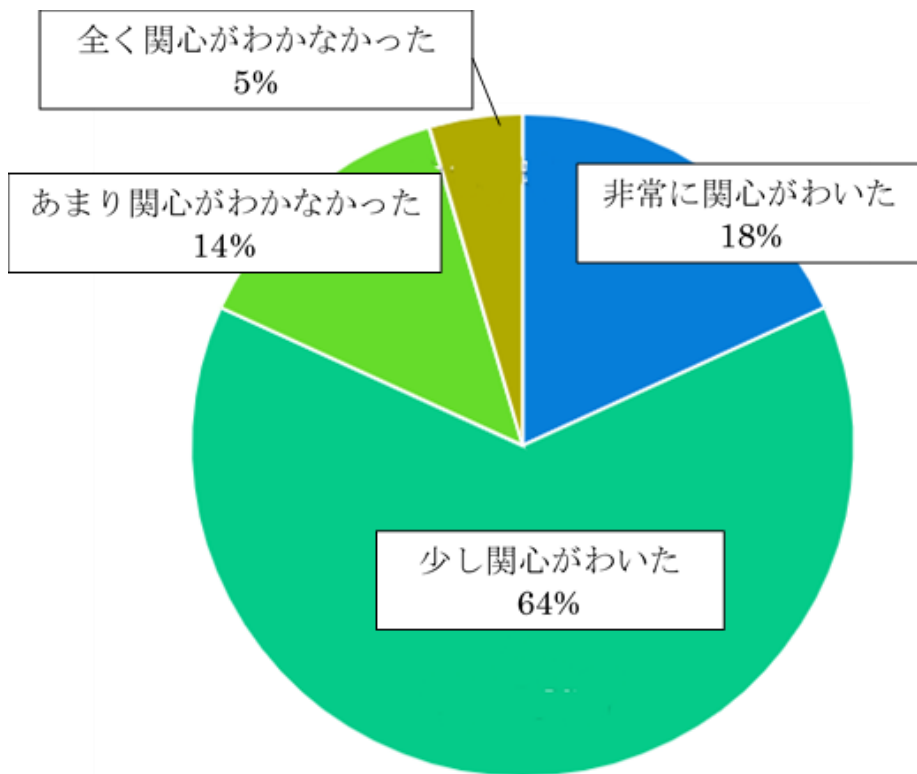
4 調査方法 市ホームページの回答フォームによる

- 集計結果について、四捨五入の結果や複数回答の集計によるため、合計が100%とならない場合があります。
- 調査結果中の「回答者数」は「調査対象者」から「未提出者」を除いた数としました。
- 自由回答、その他意見は一部抜粋。

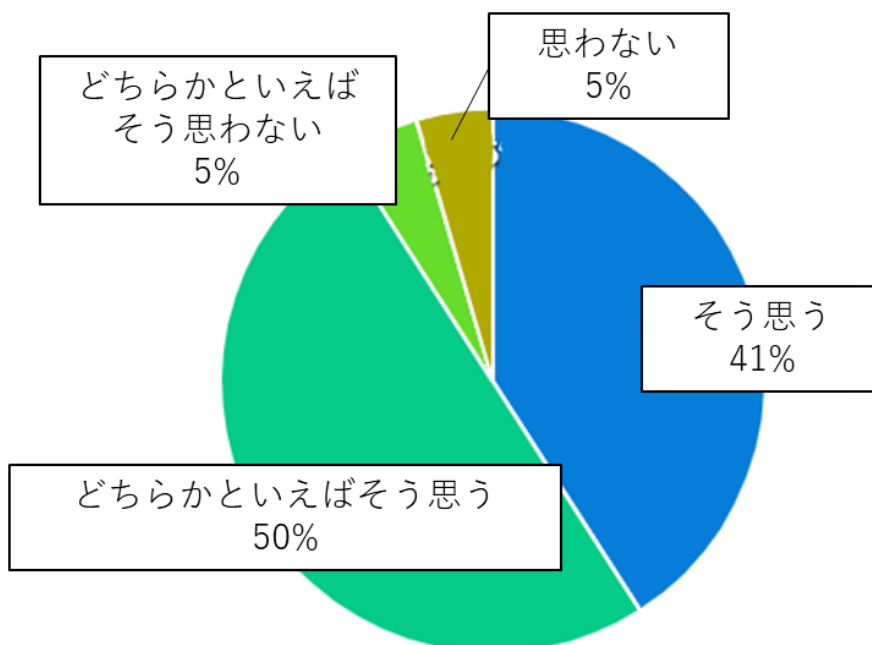


～SDGs（持続可能な開発目標）について

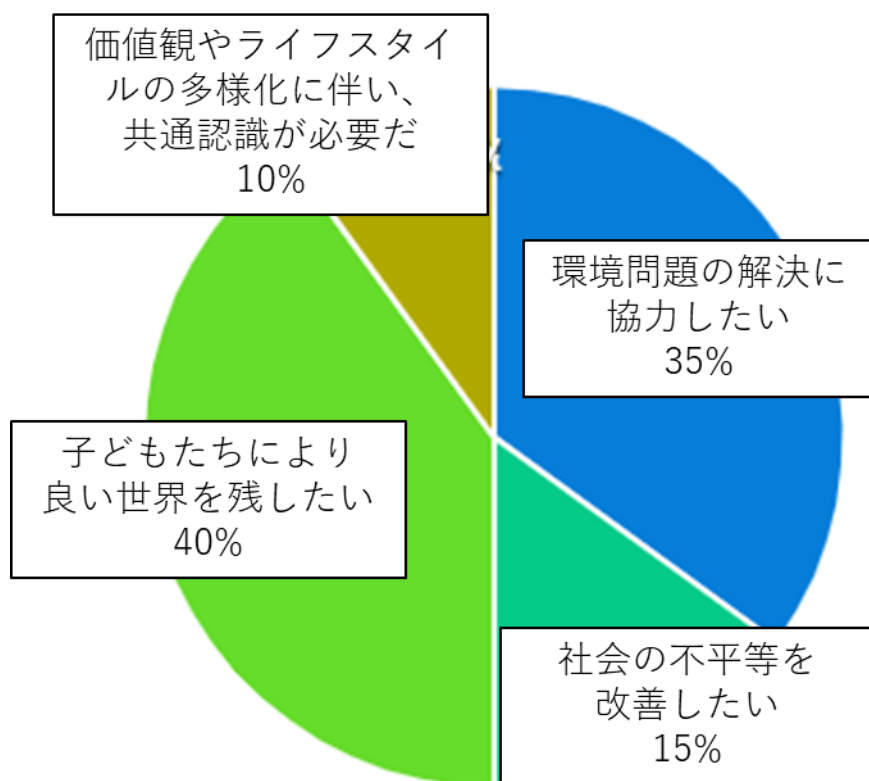
設問1 1年前と比べてSDGsへの関心にどのような変化がありましたか？



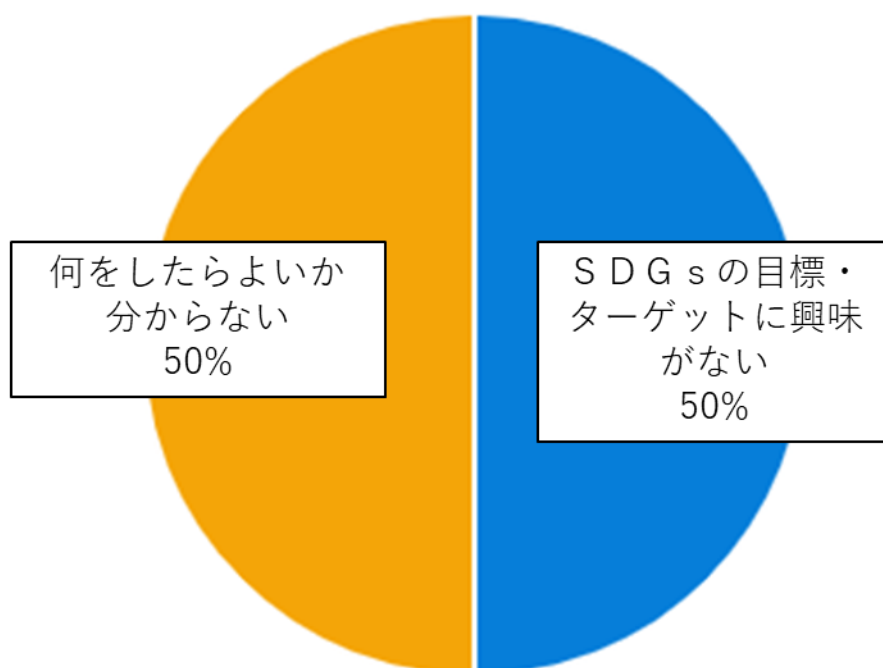
設問2 SDGsにつながる行動をしたいと思いませんか？



設問3 設問2で「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した方にお聞きします。その理由は何ですか？もっとも近いものをお選びください。



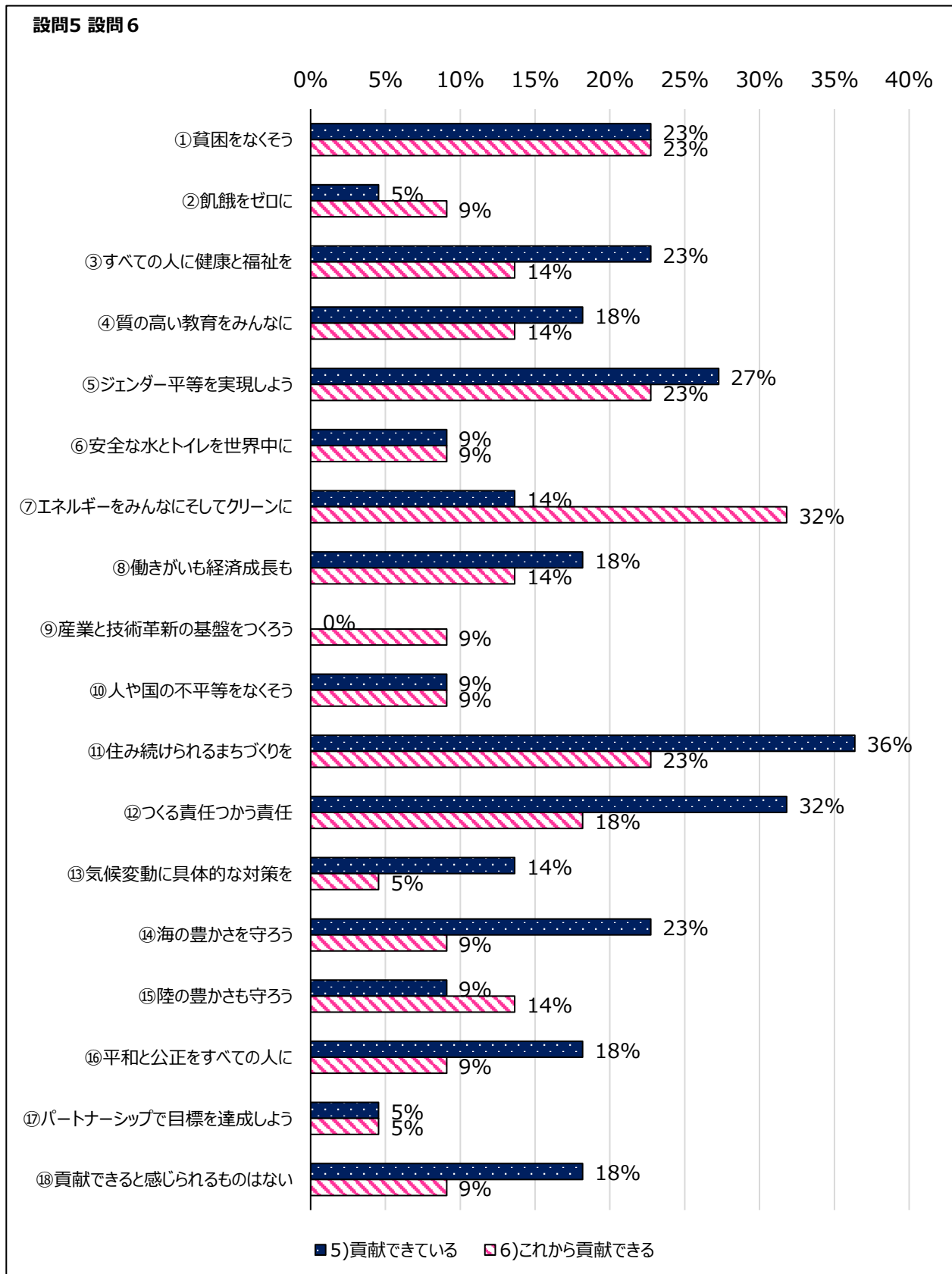
設問4 設問2で「どちらかといえばそう思わない」又は「思わない」と回答した方にお聞きします。その理由は何ですか？もっとも近いものをお選びください。



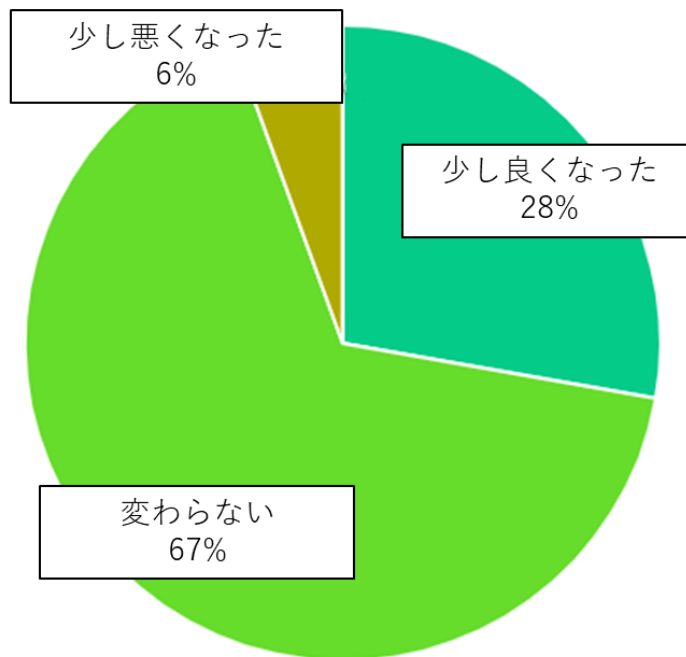
※ 「ハードルが高い」「自分にできない（少ない）」「個人の一つひとつの行動が問題解決につながると思わない」と答えた方はいらっしゃいませんでした。

説問5 SDGsの17の目標のうち、御自身で貢献できていると感じられるものはどれですか？（複数回答可）

設問6 SDGsの17の目標のうち、これから貢献できると感じられるものはどれですか？（複数回答可）



設問7 設問5で、「貢献できている」と感じる目標を選んだ方にお伺いします。SDGsの17の目標に貢献することで、御自身や御家族の生活にどのように変わりましたか？



※ 「良くなった」「悪くなった」と答えた方はいらっしゃいませんでした。

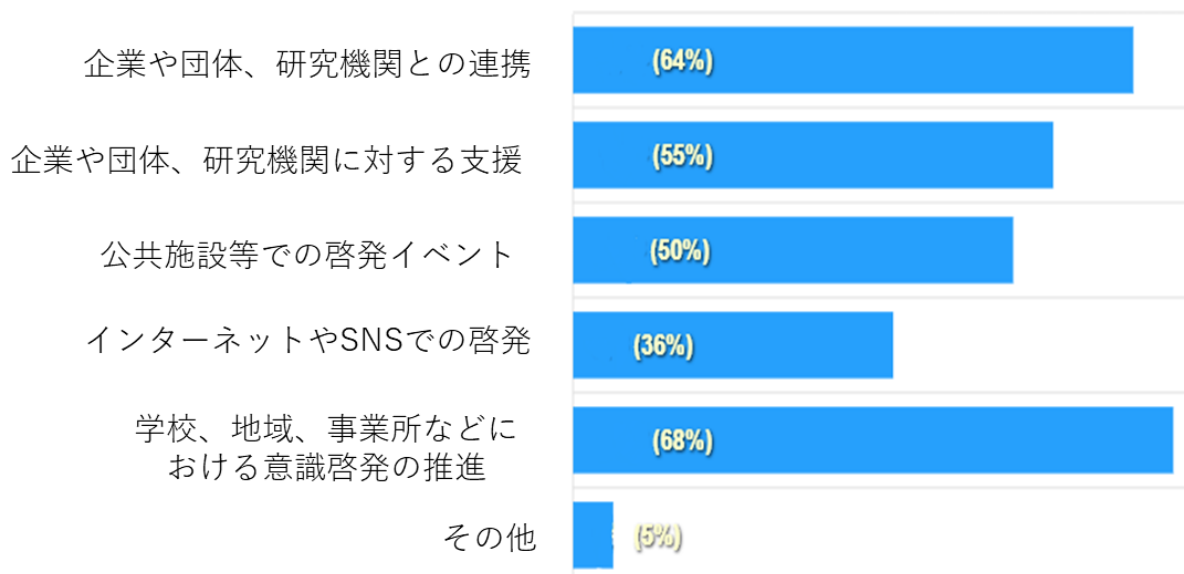
設問8 設問7で「良くなった」又は「少し良くなった」と回答した方にお聞きます。その理由をご記入ください。（150字以内）

- 行動が変わりました。エコバッグを持ち歩いたり、食べ残しを減らしたり、節水したり、節電したり生活の一部になりました。
- 男性ばかりの職場に50歳過ぎで再就職し、71歳まで元気に働くことができた。他部署でも女性が採用されるようになり「うちでは女性を採っていないので」と断られることが少なくなった。《やってみなきゃ》その一歩が大切だと思う。
- 地域のゴミ拾いをしているから
- 健康のためも含めて、歩くことを推進している
- なんとなく意識していることで生活が変わっているから

設問9 設問7で「悪くなった」又は「少し悪くなった」と回答した方にお聞きます。その理由をご記入ください。（150字以内）

- 出費が増えた

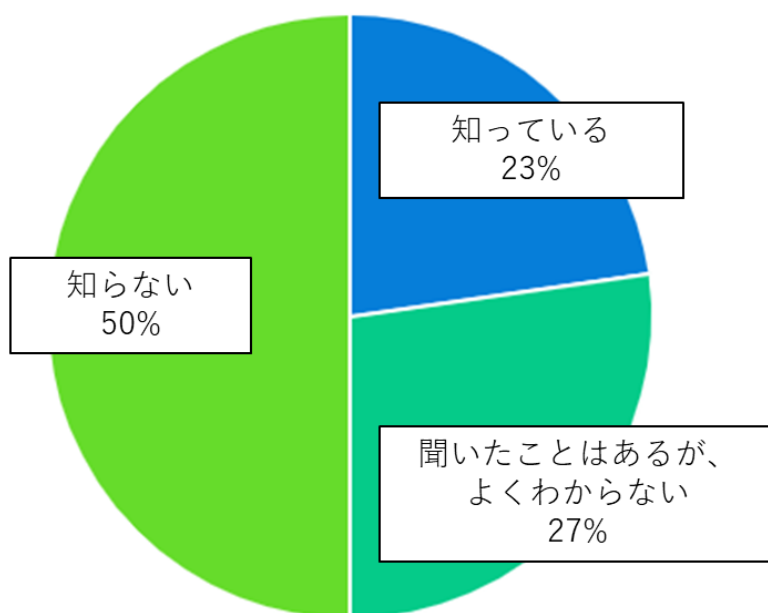
設問10 SDGsの達成に向けて、市内の取組を推進していくために、川崎市ではどのような取組が必要で効果的だと思いますか？（複数回答可）



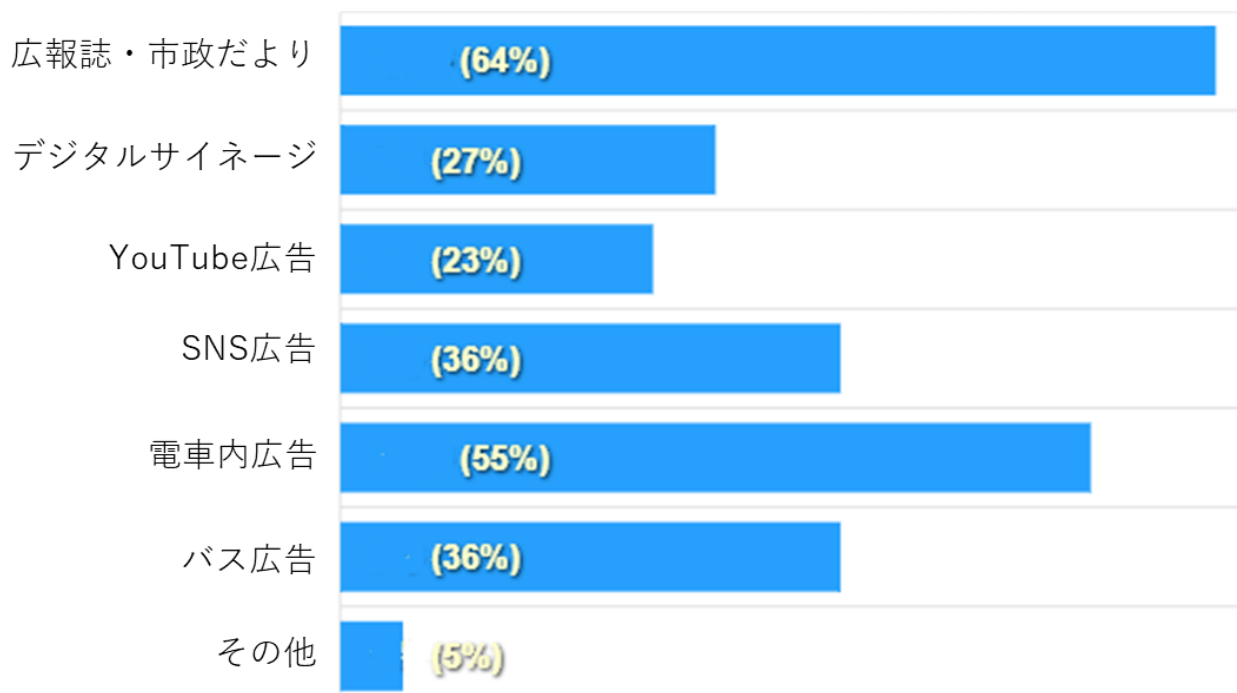
その他の内容

- ・政策自体がビジネスではないから

設問11 「消費者市民社会」とは、消費者一人ひとりが自分達のことだけでなく、地域や将来生まれてくる世代、社会や経済、地球環境のことを考えて消費生活を行い、より良い社会を作るために積極的に参画する社会です。「消費者市民社会」を目指すことは、SDGsの目標達成に繋がると考えます。消費者行政センターでは、消費者市民社会の考え方や具体的な事例について、市ホームページ等で紹介していますが、ご存知でしたか？



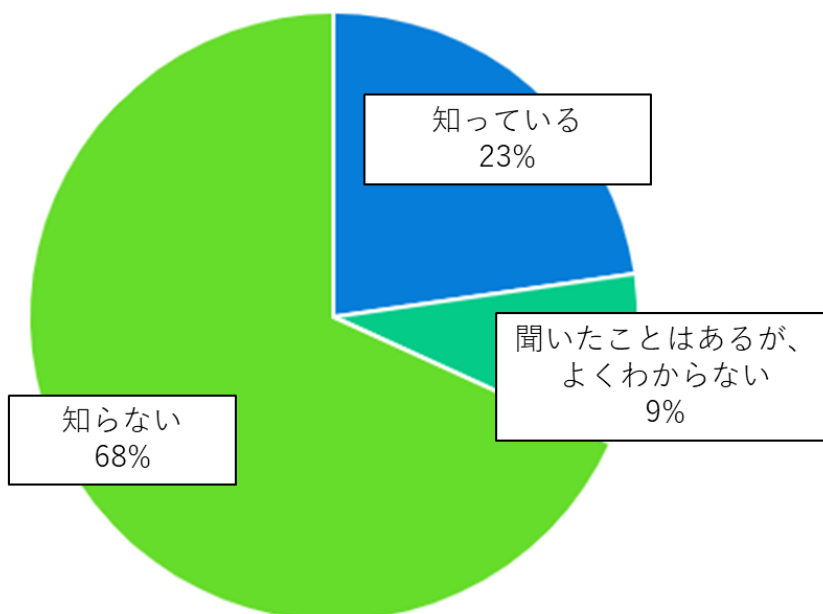
設問12 より多くの人が「消費者市民社会」について関心を持ち、理解を深め、
 するためには、どのような媒体で啓発することが効果的だと思いますか？
 （3つまで回答可）



その他の内容

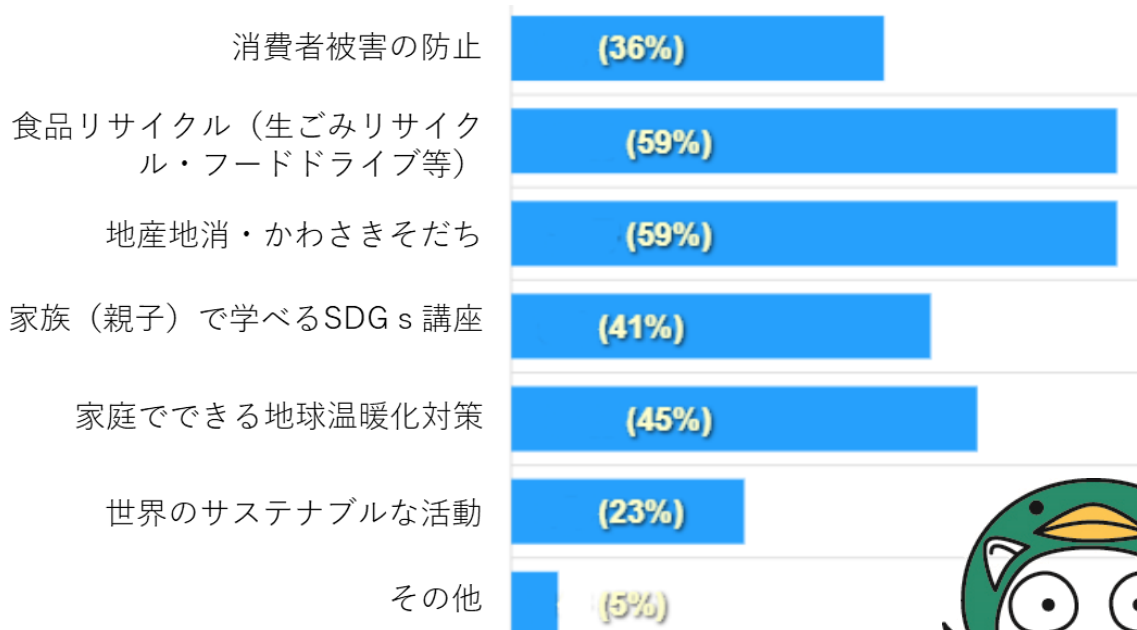
- ・小・中学校での啓発

設問13 消費者行政センターでは、身近な暮らしの問題について学んでいただくために、市内在住・在勤・在学の10人以上のグループ（任意・地域団体、企業、学校等）を対象に、御希望に応じて講師を無料で派遣する出前講座「くらしのセミナー」を実施しています。ご存知でしたか？



設問14 「くらしのセミナー」には、小学生から高校生向け、親子講座、一般・高齢者向けの講座があります。SDGs、消費者市民社会をもっとよく知るために、どのようなテーマの講座があれば参加してみたいですか？

(3つまで回答可)

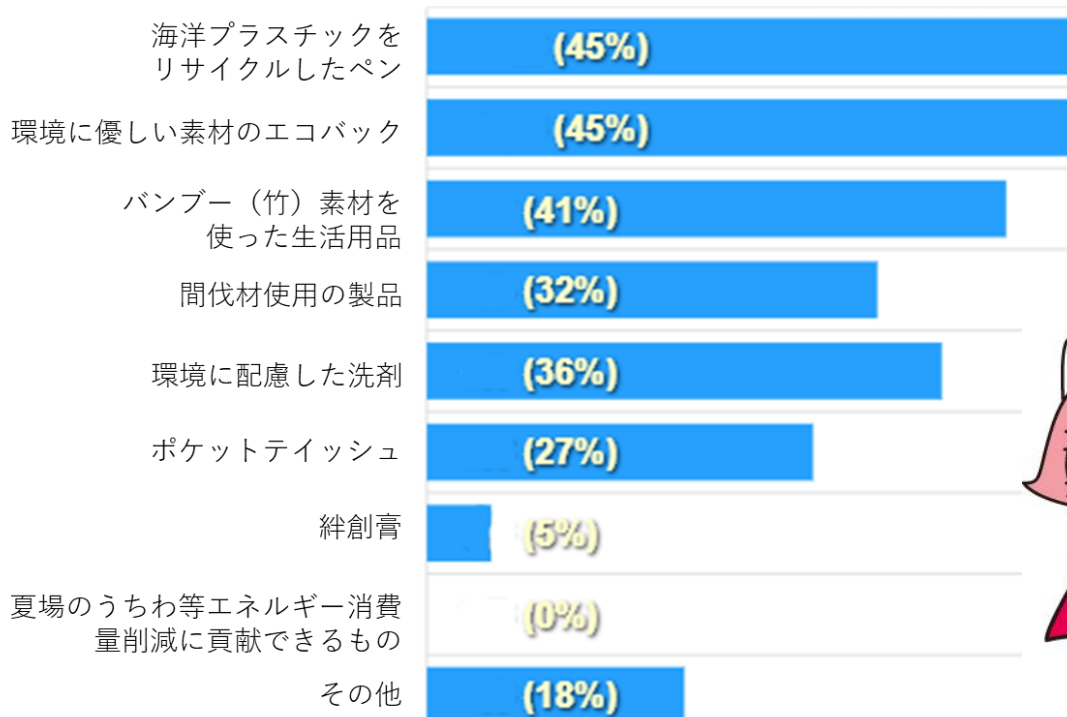


その他の内容

- ・なぜ、SDGsが必要なのか。自分たちにどう関連するのか。

設問15 消費者行政センターでは、消費者被害の未然防止、拡大防止のため、リーフレットや啓発物等を街頭キャンペーンなどのイベントで配布し、注意喚起を行っています。どんなグッズやノベルティがあれば良いと思いますか？

(3つまで回答可)



その他の内容

- ・一定期間目に入り、かつ普段利用している消耗品（キッチンペーパーの箱やジップロック、無添加ラップの箱など）
- ・お弁当でいつも割り箸を使いますが、海洋プラスチックを使用した箸とかだったら欲しいです。あとは、環境にやさしいエコバッグではなくて、一緒にお箸の袋とか。
- ・いざという時確認でき、財布の中に常時入れておける、名刺判の絆創膏（名刺に注意喚起と相談電話番号）

設問16 消費生活eモニターを経験して、SDGsに関する行動や考え方、取り組みはどのように変わりましたか？御意見等を自由に御記入ください。（一部抜粋）

1. SDGsへの関心と理解の変化

- ・消費生活eモニターを通じて、SDGsに関する取り組みを知ることができた。もともと興味があったが、より多くの情報を得ることができた。
- ・SDGsの活動についての理解が不足していることに気づき、今後はもっと取り組みたいと思うようになった。
- ・SDGsは持続可能な環境だけでなく、教育や文化、経済など幅広いテーマに関わることを学んだ。

2. 日常生活での行動の変化

- ・ゴミの分別にこだわり、プラスチックをきれいに洗浄するようになった。また、無駄を減らすために再利用を心がけている。
- ・エコバッグを毎日持ち歩くようになり、捨てるものを減らす努力をしている。
- ・車の買い替えでハイブリッド車を選択し、公共交通機関や自転車を利用することでエネルギー使用の削減を意識している。

3. 家族や地域との関わり

- ・子供が学校でSDGsについて学ぶ機会が増え、一緒に何ができるか考えるようになった。親子で参加できるイベントに興味がある。
- ・川崎市のHPや市政だよりを読むようになり、地域の取り組みについて知識を深めた。友人と情報を共有することで、地域について考える機会が増えた。

4. 取り組みの限界と今後の意識

- ・個人の取り組みには限界があると感じており、社会全体での取り組みが必要だと思う。
- ・日々の生活が忙しく、SDGsに取り組む余裕がないが、小さなことから始めることが大切だと感じている。
- ・自分自身の行動に特に変化はないが、他の人の考えや行動を知ることによって刺激を受けている。